

Title	信仰者にとっての心の病実施結果：アンケート集計結果の概要(2012 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター講演会)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1 : 31-34
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4336
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

総合研究所 News

2012聖学院大学総合研究所
 カウンセリング研究センター講演会
信仰者にとっての心の病
 実施結果—アンケート集計結果の概要

聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターの理念、目的とするところは、キリスト教信仰とカウンセリングとの関係について研究することにより、苦しめるいのちを支えることにあります。

今回、生涯にわたって精神医学の研究、教育、臨床に携わってこられたキリスト者の関根義夫先生をお招きします。

先生は精神科医として病気の治療をされると共に、聖書集会を主催されてされました。このような先生にメンタルヘルスとキリスト教信仰について、じっくりとお話を伺う機会はありません。

日時 2012年7月13日(金)14:00~16:30
 場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

主催者挨拶

阿久戸光晴（聖学院大学理事長・学長）

講師紹介

平山正実（聖学院大学大学院教授）

講演 「信仰者にとっての心の病」

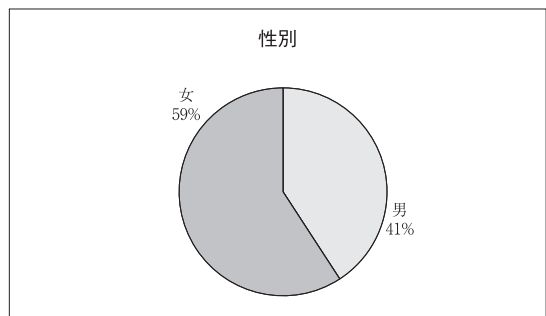
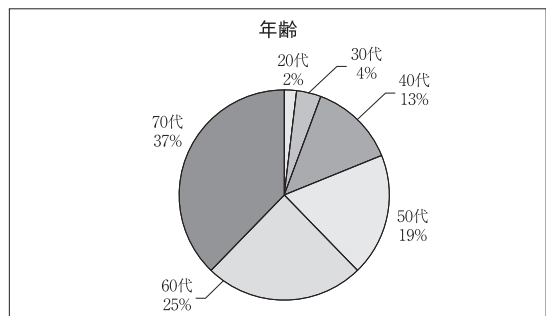
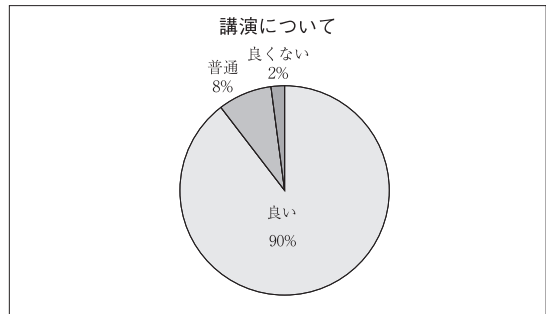
関根 義夫（元 社会福祉法人賛育会 賛育会病院 院長）

質疑応答

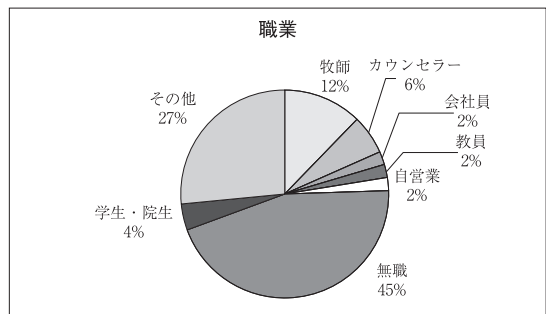
閉会挨拶

【結果の概要】

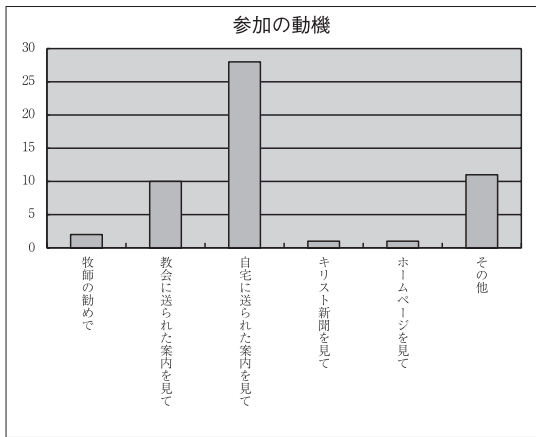
- ・参加者は98名。内、アンケート回答者は53名。
- ・講演について、「良い」が90%と高い評価を得た。
- ・自由意見として、「講演を聞いて気持ちが楽になった」「次回も楽しみにしている」「明確な答えが与えられた」「元気付けられた」など。



* 回答者の年齢は、「70代」がもっとも多く37%、次いで「60代」25%「50代」19%となった。性別としては、「女性」59%、「男性」41%となった。



* 職業別には、「無職」45%、「牧師」12%、「学生・院生」4%となった。「その他」の内容は、「保育士」「伝道師」など。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「教会に送られた案内を見て」。

「その他」の内容は、「友人の勧め」「家族の勧め」「職場で案内を見て」など。

リクエスト

- ・関根先生に2回目をお願いしたい。
- ・平山正実先生
- ・太田和功一先生
- ・人との関係において、恨みはつきない。心の病の話、多くの事例を知りたい。
- ・「キリスト者にとって死に目とは」について話が聞きたいです。

自由意見

- ・最近渡辺和子師（ノートルダム学園）のお話が教会にとって大切なテーマと思っています。「信者もうつ病になる」これで開放されたと話しておられます。



- ・自ら死を選ぶことを病によることでの死ならば、救いから洩れることはないという最後のまとめはとても心に深くのこりました。
- ・高倉徳太郎先生の著書にすごく励まされたものとして、「自死」には答えられなかったが、今回の講演で明確な答えが与えられた。
- ・現代は心の病が急増しています。信者も同じです。信者であっても信仰の姿勢、信仰のあり方は異なります。信者は～ねばならぬ、こうあるべきという画一的な信仰のあり方ではなく、「神に愛されている存在+ (Being) としての信者の歩みの中にいたら、病は減少していくのでは…そこに焦点をあてた講演をお願いしたい。
- ・私自身父の死後（病院洗礼）、母の認知のひどさから5年間うつ状態、全身の痛みで病んでいます。教会の礼拝にもでられません。何が原因なのかわかりません。うつなのか痛みなのか？霊的なものなのか？今日の講演を聞いてとても気持ちが楽になりました。
- ・高倉牧師の「強力性」「執着性格」が私の中にもあるかもしれない!! 今、心療内科に通い自分を客観的に見ている。人の生き方にそれぞれの道があるけれど自分はどんな心地よい道を選びたいのか―道は当たり前前に困難であるはずだから。いかにそれを乗り越えられるか―が今の課題かと。クリスチャンになって迷うことばかりだが、光に向かって進むしかないのか、少し光が見えた気持ちです。母の精神病と小さい頃からつきあってきたので逆に客観視してもいます。
- ・大変有意義なご講演ありがとうございました。聞きながら色々考えさせられました。クリスチャンであっても心の病にはなり、精神科の薬物療法（有効な場合）があるというのはごく当たり前前に思いますが、教会の中で信者として出会った場合、もしかしたらその方を信仰によって乗り越えねば、と思わせてしまう危険はあると思いました。精神科の病気について正確な知識をもち、必要と思えば積極的に受信を勧める姿勢も大切と思いました。
- ・関根先生の笑顔に元気づけられました。貴重な時間をありがとうございました。

- ・自分も以前、不安障害で、治療カウンセリングを受けたことがあり、信仰との葛藤に苦しんだこともありました。私の周りでも信仰者でありながら、心を病んでしまったことで苦しんでいる人が少なくありません。「信仰者にとっての心の病」について広く啓蒙していただければ、幸いです。
- ・今年は三次元の世界から、五次元の世界に昇華する年と聞きましたが、それに関する講演を聞きたいと思います。
- ・とても興味深いお話でした。キリスト者にとって“心の病”が理解されないことは今もあまり変わってはいないと思います。
- ・3例の「元来の人となり」を形づくるに至った原因への推察が無かったので、興味がわいた。配偶者はノンクリスチャンなのだが、まさに高倉牧師の生き様と重なった。つれあいは単にうつ病と診断されたのだが、「対極性障害Ⅱ型」と重なる…とすると、対応の仕方が違うのか？ また、それは「病」であり、もはや「カウンセリング」で対応する域を越えているのだろうかと思う。まとめに記された言葉は多くの人にとって救いとなる。「元来の人となり」…3者、あるいはつれあいも含めると4者になるだろうか…の根底にある。自分の存在を何とか肯定したい、認めて欲しい、素晴らしいのだということを確認したいという強い思いを感じる。統合失調症、双極性の方達の対応の仕方は本当に難しい。彼らが望む対応法などヒントになればいつか扱ってほしい。
- ・関根先生の誠実なお人柄が伝わってきました。先生の信仰の話も聞いてみたいと思いました。
- ・心の病は信仰とは別に、ほとんどの場合適切な治療が必要である。安心して治療を受けなさいと進めることを学びました。
- ・例をあげて具体的に話されてよかった。自死のことがなかなか理解しがたいところ先生の医師としてのやさしい目であたたかく受け止められていること、信仰的に受け入れておられることに心を動かされました。
- ・信仰を持ちながら病に陥っていく、み言葉を信じ、み言葉に委ねるように生きるならば病はい



やされるとも考えていますが、しかし病気であるという視点は大切に見つめていかなければいけないことを気づかされました。

- ・教会や所属団体内における心の病を抱えた人に対してどのように接したらよいか何時も苦しんでおりました。今日のお話をお聞きして、信仰と心の病の問題を深く考えるヒントをいただきました。感謝！
- ・とても温かい視点で深く教えられました。心より感謝申し上げます。ますますのご活躍を心よりお祈りさせていただきます。
- ・精神医学的な考察がもう少し多ければよかったと思いました。高倉は最後まで信仰がなかったのではと思われました。
- ・信仰をもってるが故に、自身を追い詰めていくということ、私自身親しくしていた人で経験してきました。医学的治療と並行して、信仰の友の立場にある者は、“救い”、“慰め”などの聖書からの言葉を常に伝えることはできるかな？と。それが心の病を持つ人への「助け人になれるかな」と思っているところです。
- ・信仰がある故の苦しみを抱えている人が意外と多い。いつも案内をみながら行きたいと思っていたので、来ることが出来て良かった。今後も機会があれば来たい。
- ・週1回、自宅を開放し、フリースペースの場を2年ほど続けております。家主はイエス・キリスト、私は世話人、主人は協力者、ここで話されることは人間としての裸の部分。毎回感動の連続で勉強になります。開設させていただいている者も、来訪者も共によるこんで時間を共有

しております。大変なこともあります、共に成長し合える実感しきりです。

- ・個人的には、精神科、内科分野に興味がありますが、今回のお話はあくまでも各牧師様が担当された患者さんの症例発表のため、コメントがだしづらいです。もう少し聖書（その内容）と関連させた内容だと良かったかもしれません。次回も楽しみにしております。
- ・親達が富士見町教会にいましたので、植村牧師、内村牧師の事など関心がありおもしろかった。
- ・事例の A 君のお話、“彼の苦悩の大きさを思う”という言葉と同様に関根先生の苦悩も伝わってきました。でも背後にキリストの憐れみも強く感じました。
- ・今回参加したことは大変よかったと思います。どういった人と接しているか。また、対応、対応のしかたによって問題点がどこにあったのか、反省する点がどこにあったのかなど、カウンセリングを行う場合難しい点があり、経験がある先生のお話は大変参考になりました。
- ・今も教会に病を持った方が出席なさっていますので、次回はこんにちの現代の若者を中心にお話くださればうれしいです。
- ・温かい時間に参加できてよかったです。ありがとうございました。
- ・他の信者、牧師に是非聞かせたい。
- ・友人（息子さんが自死しました）が途中で帰りました。
- ・精神を病む未信者の家族に信仰者である自分がどう対峙すればよいか。
- ・事例 1、事例 2 は客観的な事実説明が不足。病気の原因考察が不足。信仰と病気の関係考察が不足。
事例 3 は、資料による考察は深い、過去の人であり、講師が診察した人ではない。
現代の事例、病気への分析、社会と病気、病気と信仰についてとらえるべきだと思います。